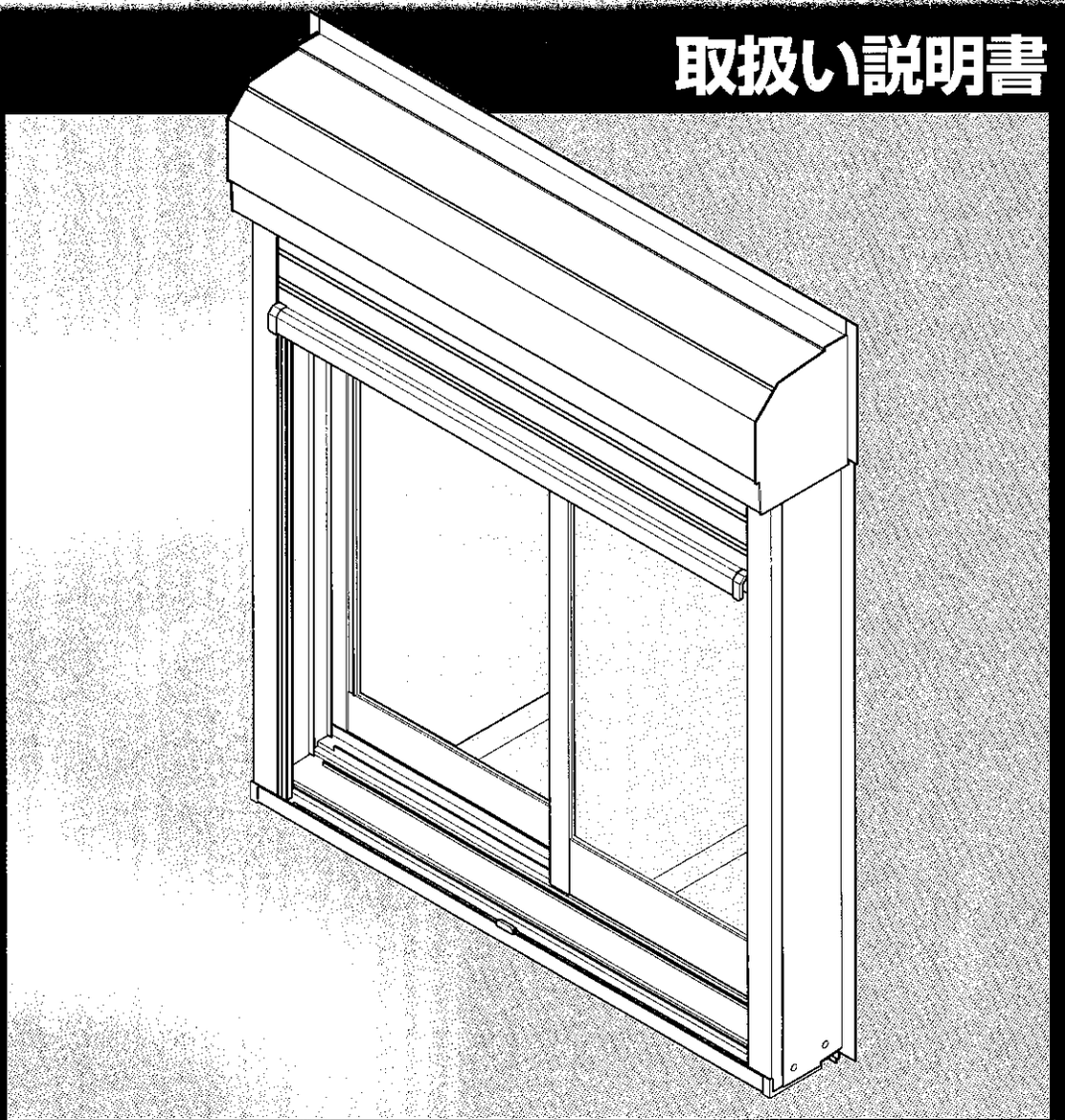
TOSTEM

お施主さま用

窓シャッターシリーズ イタリヤS
(セーフティーリターンセンサー付)

取扱い説明書



警告

この取扱い説明書を読んで理解するまでは、「イタリヤS」の操作およびお手入れを行わないでください。
この取扱い説明書は、ご使用中にご不明な点や、お手入れの方法などをいつでも調べられるように大切に保存してください。

目 次

目次 ---- 1
重要なお知らせ ---- 2
保証について ---- 3
本書の目的と構成について ---- 4
1.安全について ---- 5
警告用語の種類と意味 ---- 5
安全のためお守りください ---- 5
2.「イタリヤS」について ---- 8
セーフティリターンセンサーとは ---- 8
各部のなまえとはたらき ---- 9
本体 ---- 9
壁スイッチ(GZAZ001) ---- 10
3.操作のしかた ---- 11
壁スイッチの操作のしかた ---- 11
4.イタリヤSの異常表示 ---- 12
赤の点滅 ---- 12
5.手動開閉機構の使いかた ---- 13
手動開閉機構とは ---- 13
お願い ---- 13
開閉のしかた ---- 13
6.点検とお手入れ ---- 14
点検 ---- 14
セーフティリターンセンサーの作動点検 ---- 15
お手入れのしかた ---- 16
7.シャッターが動かない場合 ---- 17

重要なお知らせ

警告

安全のために、かならずお守りください。
「イタリヤS」の操作およびお手入れを行う場合は、必ずこの取扱い説明書に従ってください。
もし、この取扱い説明書に従わず乱用または誤用によって、けがおよび損害が発生した場合は、トステム株式会社およびその販売会社に責任はないものとさせていただきます。

1.この取扱い説明書に記載してある注意事項が、すべての危険を含んでいるわけではありません。
したがって、「イタリヤS」の操作およびお手入れを行う場合は、この取扱い説明書に記載されている事項に限らず、安全対策に関して十分な配慮が必要です。

2.この取扱い説明書は版権を有し、その権利は留保されています。したがって、事前に文書でトステム株式会社の承諾を受けずに、資料を公開または複写しないでください。

3.この取扱い説明書についての質問またはより詳しい情報が必要な場合は、以下の窓口に連絡してください。

問い合わせ事項	連　絡　先	所在地・TEL
全般 (故障、不具合等)	最寄りのトステム(株)営業所	

保証について

1.保証者

トステム株式会社

2.保証の対象者

住宅の所有者

3.対象商品

トステムブランドで販売している一般住宅用商品及びエクステリア商品

4.保証内容

通常の取扱いによって生じた品質不良、性能及び機能の低下によるもので、かつ当社が認定したもの。

5.保証期間

当該商品の取付け完了後2年間(電装部品については1年間)ただし、完了時期については所有者が立証責任を負う。

6.品質保証の免責事項

原因が次の様な場合は、保証期間内であっても有償修理となります。

イ.環境が特に悪い地域の場所に取り付けられたもの。

(例えば、塩害や大気中の砂塵や煤煙、各種金属粉、亜硫酸ガス、アンモニア、車の排気ガス等の反応物質が付着して起こす腐食、高温、低温、多湿による損害や故障)

ロ.保証者の表示した取扱いから逸脱したもの。

(a)モルタル(アルミに接触する部分)に海砂を使用
(b)モルタル(アルミに接触する部分)に急結剤を使用
(c)塩分等を含んだ木材を使用
(d)施工指示通りに施工がなされていない(コーキング材)
(e)中性洗剤以外のクリーニング剤を使用

ハ.使用者もしくは第三者の誤り、または不当な修理や改造によるもの。

ニ.不可抗力(天災、地変、地盤沈下、火災、爆発、騒乱、落雷、異常電圧等)により発生したもの。

ヘ.建具構成材であっても当社供給範囲以外のもの。(ガラス等)

ト.一般住宅用とは認められない使用目的に使用されたもの。

本書の目的と構成について

本書の目的は、窓シャッターシリーズ「イタリヤS」について、正しい操作および日常のお手入れのしかたを知っていただくために、詳しい情報を提供することです。本書には、以下の情報を記載しています。

1.安全について

「イタリヤS」を操作する前に、必ず読んでください。
この章では、「イタリヤS」を操作する場合に守るべき安全事項、および本書で使用している警告用語について説明しています。

2.「イタリヤS」について

この章では、「イタリヤS」各部のなまえとはたらきについて説明しています。

3.操作のしかた

この章では、「イタリヤS」のいろいろな操作のしかたについて説明します。

4.イタリヤSの異常表示

この章では、「イタリヤS」の異常表示ランプについて説明します。

5.手動開閉機構の使いかた

この章では、手動操作のしかたについて説明しています。

6.点検とお手入れ

この章では、「イタリヤS」の点検と日常のお手入れのしかたについて説明しています。

7.シャッターが動かない場合

この章では、故障の見分け方、および故障やご使用上でご不明な点の連絡先について説明しています。

1.安全について

この章では、「イタリヤS」の操作をする場合に守るべき安全事項を説明しています。

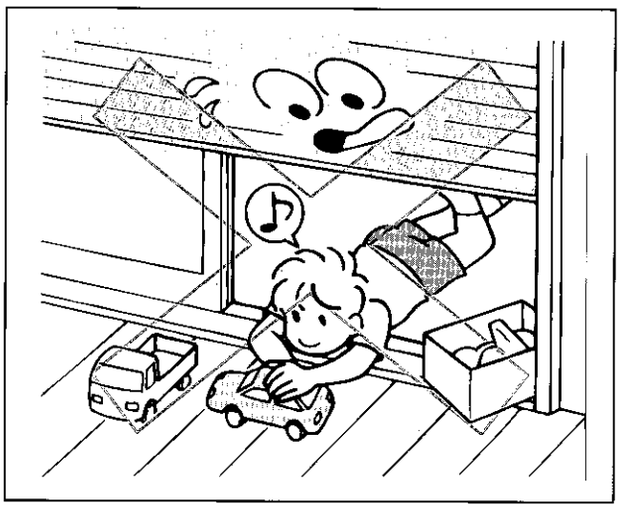
■警告用語の種類と意味

この取扱い説明書では、危険度の高さ(または事故の大きさ)にしたがって、次の3段階に分類しています。
以下の警告用語が持つ意味を理解し、本書の内容(指示)に従ってください。

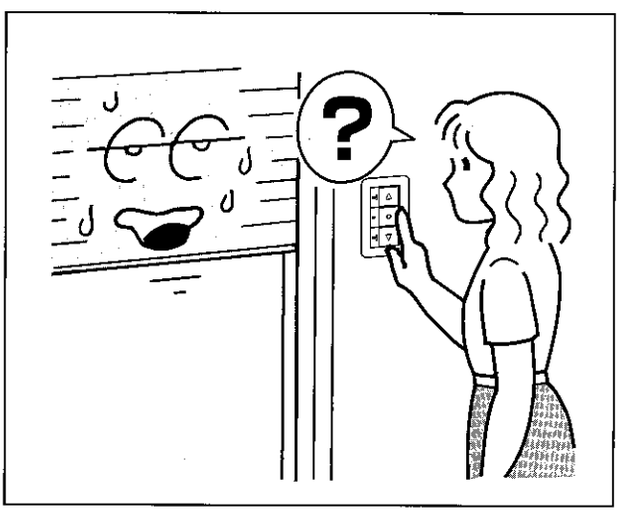
警告用語	意　味
⚠警　告	**潜在する危険な状態**を示し、手順や指示に従わないと、**死亡もしくは重傷を負うかもしれない場合**に使用されます
⚠注　意	**潜在する危険な状態**を示し、手順や指示に従わないと、**中・軽傷を負う**場合、または当社の製品以外の財産に影響を及ぼす場合に使用されます
お　願　い	とくに注意を促したり**強調**したい情報、指示に従わないと**機器の損傷・故障**につながる場合に使用されます

■安全のためお守りください

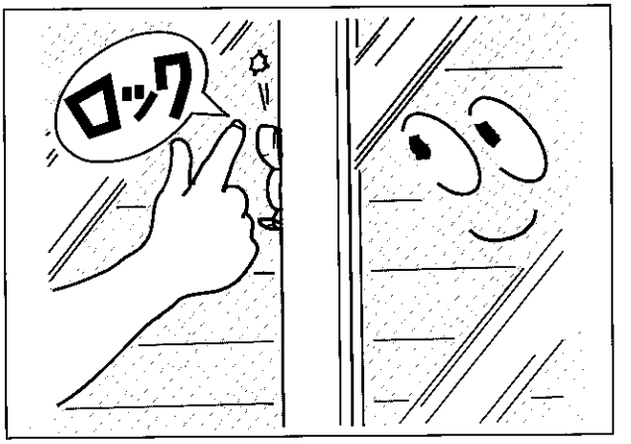
●「イタリヤS」の開閉位置に人がいないこと、物がないこと、また、外開きサッシに取り付けてある場合、障子が閉まっていることを必ず確かめてから作動させてください。



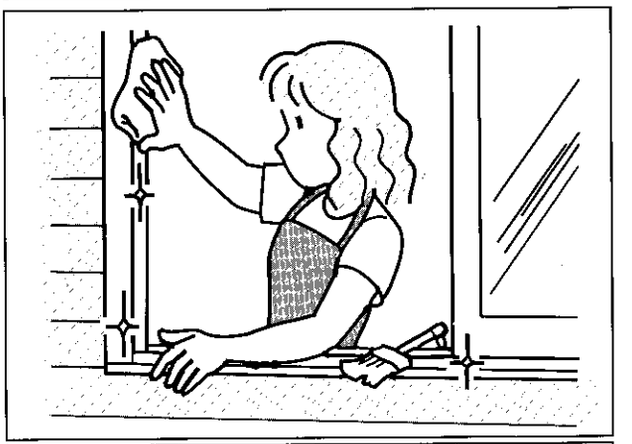
●「イタリヤS」は短時間での繰り返し開閉は、しないでください。保護装置が働き、作動しないこともありますが故障ではありません。「イタリヤS」が作動しない場合、10分～15分程度休ませると、再び開閉できます。



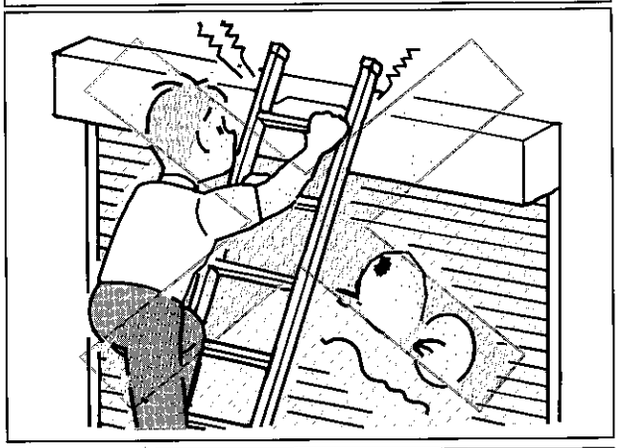
●おやすみ、または外出の際は「シャッター」を閉め、必ず内側(サッシ等)もロックしてください。
さらに、強風、雨の際にも、きちんとロックをしてください。



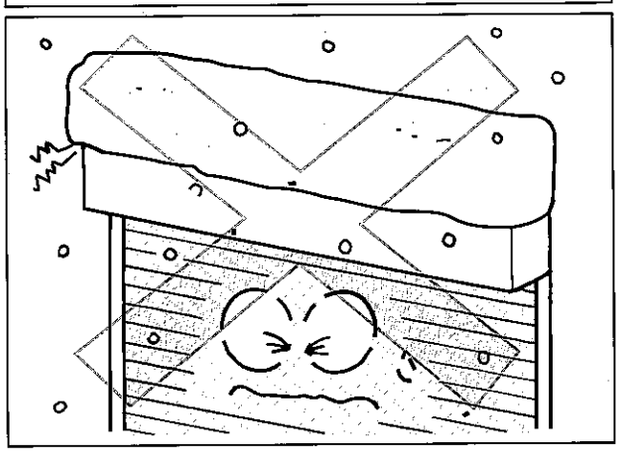
●「イタリヤS」下部の水切り部や、ガイドレール内部に異物等がないようにしてください。
さらに、水切り部やガイドレール内部を常に清掃してください。



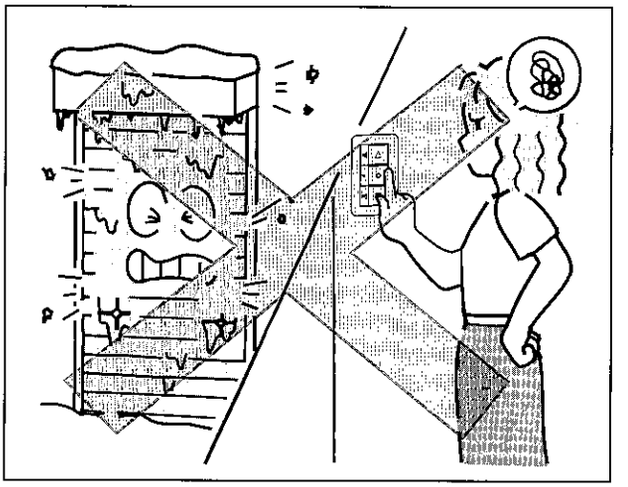
●「シャッターボックス」は変形しやすいので、「シャッターボックス」にはしごをかけたり、上にのったりしないでください。



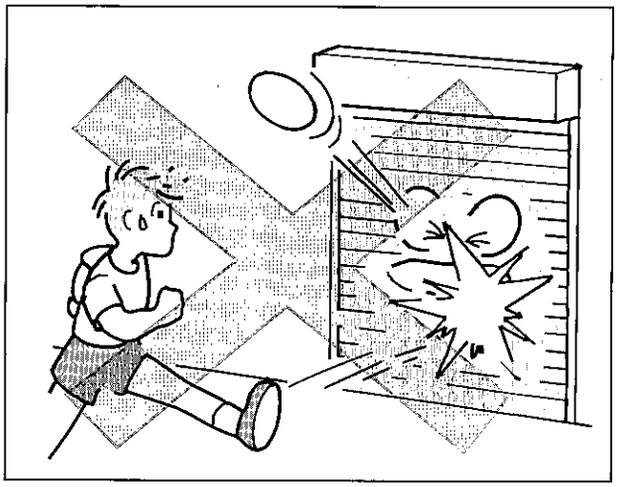
●「シャッターボックス」に雪が30cm以上積もった場合は、取り除いてください。
雪を取り除く場合は、足場をしっかり確保して作業をしてください。作業者の転落、負傷のおそれがあります。



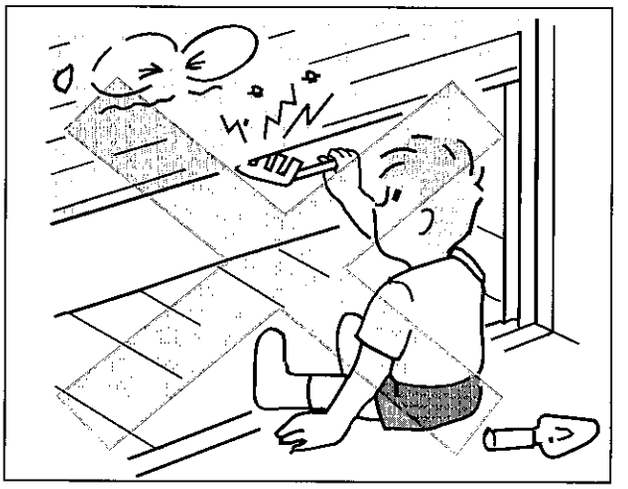
●冬期等で、「イタリヤS」が凍結した場合は、溶けるまで待ってから作動させてください。「イタリヤS」が凍結したまま作動させると、故障の原因となります。シャッターボックスが壊れたり、スラットに傷がついたりします。



●「イタリヤS」に物をぶつけたりしないでください。「イタリヤS」が変形し、スムーズに開閉しなくなるおそれがあります。



●ガイドレール内部のゴムを指や物で押さないでください。障害物を検知するセンサースイッチが作動してしまいます。また、このゴムに傷がついたり切れたりすると、セーフティーリターンセンサーが作動しなくなります。



●点検口を開けないでください。

●「イタリヤS」を改造しないでください。とくに、モーターの改造、配線の変更は事故や故障の原因となります。

2.「イタリヤS」について

この章では、「イタリヤS」の操作をする場合に守るべき安全事項を説明しています。

■セーフティーリターンセンサーとは

シャッターが下降中、「イタリヤS」の幅木が物に触れると、シャッターはただちに停止し、自動で上昇します。この機構をセーフティリターンセンサーといいます。

⚠ 注 意

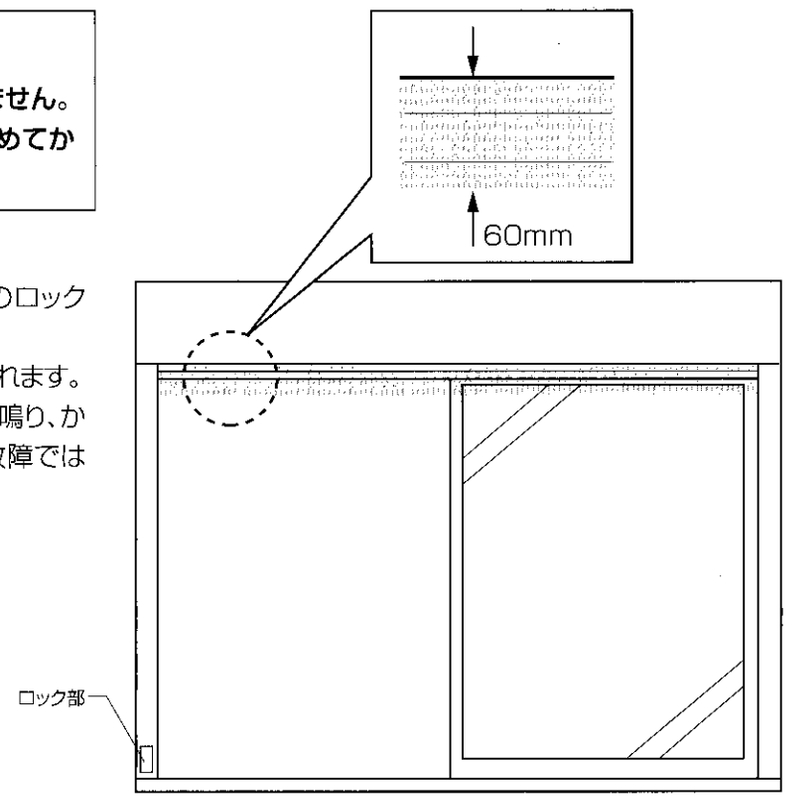
セーフティーリターンセンサーは補助手段の機構です。
シャッターを開閉するときは、以下を確かめてから開閉してください。

(1) 開閉位置に人がいないこと
(2) 開閉位置に物がないこと
(3) 外開きサッシの場合、障子が完全に閉まっていること

●スラットの移動部全体が感知範囲

お願い

全開から下側 60mm の範囲は感知できません。60mm の範囲内に物がないことを確かめてから作動させてください。



●自動の電磁式ロック機構

シャッターを全閉状態にすると、電磁式のロックが自動的にかかります。
また、開ける場合は自動的にロックが解除されます。

※ロックが解除される際に「カチン」と音が鳴り、かすかに音が発生する場合がありますが、故障ではありません。

■各部のなまえとはたらき

⚠注　意

ここでは、「イタリヤS」各部のなまえとはたらきについて説明しています。「イタリヤS」の操作は「3.操作のしかた」の手順に従ってください。

■本体

「イタリヤS」本体の各部の
なまえとはたらきを説明します。

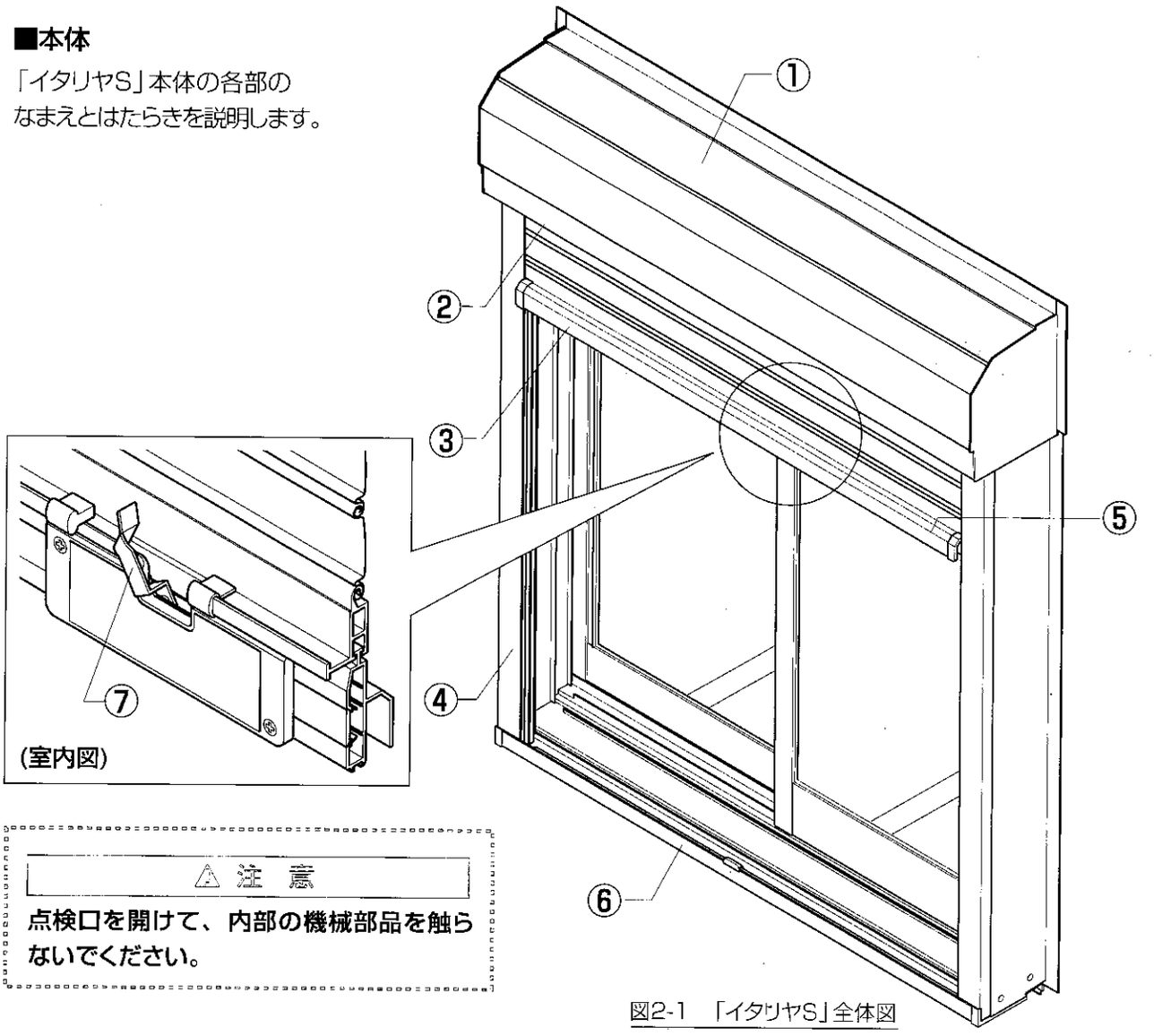


図2-1　「イタリヤS」全体図

⚠注　意

点検口を開けて、内部の機械部品を触らないでください。

本体各部のなまえとはたらき(表2-1)

番号	なまえ	はたらき
①	シャッターボックス	スラットおよびモーター等を収納する部分です
②	点検口	モーター等の点検口です
③	スラット	「イタリヤS」のカーテン部分です
④	ガイドレール	両側にあり、スラットの動きを案内します
⑤	幅木	スラットの最下部で、手動開閉時のロックレバーが組み込まれています
⑥	水切り	「イタリヤS」の底の部分で、雨水等を流します
⑦	ロックレバー	全閉時に手動で開けるとき使用します

壁スイッチ(GZAZ001)

操作のしかたは「3.操作のしかた」をご参照ください。

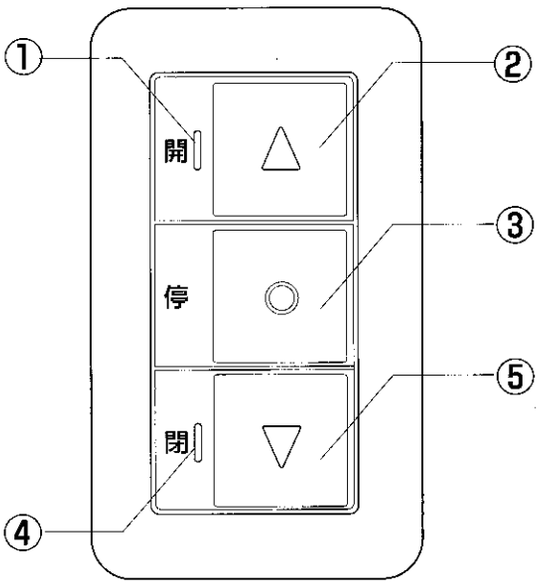


図2-3　壁スイッチ

壁スイッチのなまえとはたらき(表2-2)

番号	なまえ	はたらき
①	開ランプ(赤)	シャッターが全開または途中停止で点灯します (少しでも開いていると消灯しません) 以下の3つの状況を感知すると、点滅します ・下降中にセーフティリターンセンサーが異常を検知した場合 ・幅木の下を持って手動で開けた場合(停止、上昇中とも) ・ガイドレールのセンサーゴムに誤って触れた場合
②	開スイッチ	開:シャッターが上昇します
③	停止スイッチ	停止:シャッターが途中停止します 開ランプ(赤)の点滅を解除します
④	閉ランプ(緑)	シャッターが全閉の場合、緑色で点灯します (全閉中は消灯しません)
⑤	閉スイッチ	閉:シャッターが下降します

3.操作のしかた

この章では、「イタリヤS」の操作のしかたについて説明しています。

■壁スイッチの操作のしかた

⚠ 警 告

シャッターを開閉するときは、以下を確かめてから開閉させてください。
(1) 開閉位置に人がいないこと
(2) 開閉位置に物がないこと
(3) 外開きサッシの場合、障子が完全に閉まっていること

■壁スイッチ(GZAZ001)からの操作のしかた

1.開けたい場合

開スイッチ②を押してください。

●シャッターが上昇し、開ランプ(赤)①が点灯します。

→シャッターを全開または途中で止めたとき、開ランプ(赤)①が点灯します。

2.閉めたい場合

閉スイッチ⑤を押してください。

●シャッターが下降します。

●シャッターが全閉のとき、閉ランプ(緑)④が点灯します。

(お願い)

●開閉途中で停止ボタンを押すと、シャッターは、いったん停止してから、多少上・下に動くことがあります。
これは、本製品の機構上の特性で故障ではありません。

※その際、開ランプ(赤)①が点灯します。

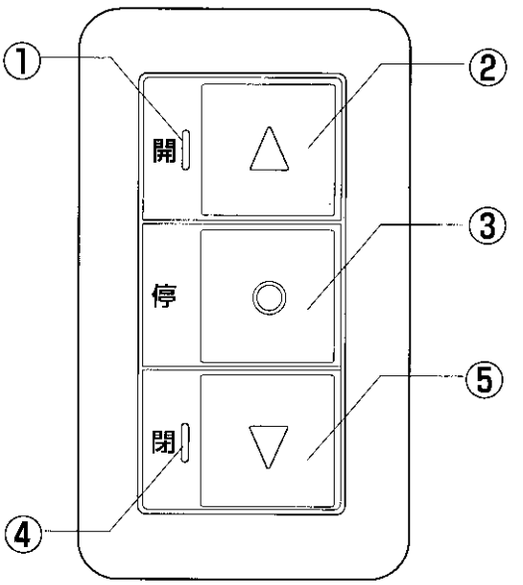


図3-1壁スイッチ(GZAZ001)

番号	なまえ
①	開ランプ(赤)
②	開スイッチ
③	停止スイッチ
④	閉ランプ(緑)
⑤	閉スイッチ

4.「イタリヤS」の異常表示

「イタリヤS」が異常を感知した場合、以下の異常表示をします。
開ランプ(赤)が点滅をします。
この章では、異常表示の状態と解除のしかたを説明します。

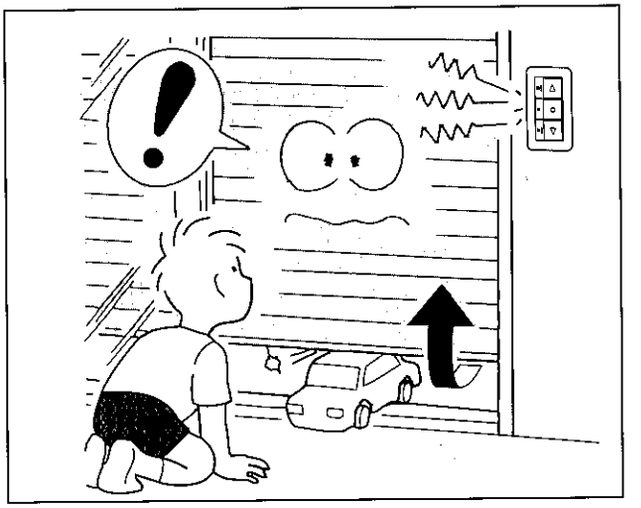
■赤の点滅

開ランプが赤の点滅をするのは以下の原因が考えられます。

1.シャッターが下降中に、幅木が異物(人、物など)を感知した場合
→シャッターはただちに停止し、自動的に上昇し、全開で停止します。

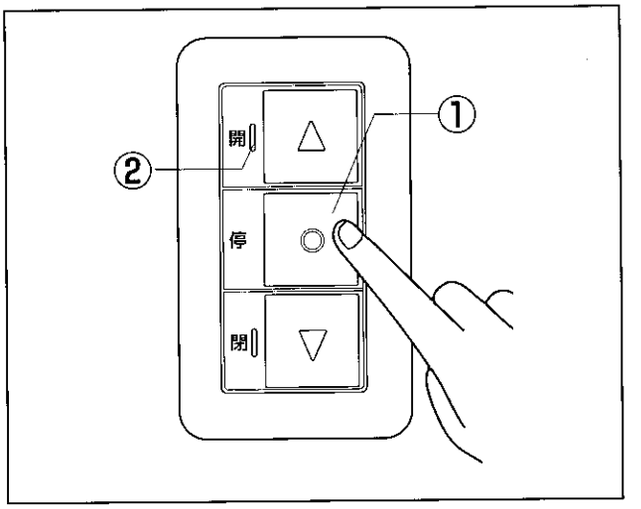
2.シャッターが上昇中に幅木の下が押された場合
→シャッターはその場で停止します。

3.シャッターが途中停止しているときに幅木の下を持って、持ち上げた場合



開ランプ(赤)の点滅の解除のしかた

1.停止スイッチ①を押してください。異常開ランプ(赤)②の点滅を解除します。



5.手動開閉機構の使いかた

この章では、手動での開閉のしかたについて説明しています。

■手動開閉機構とは

「イタリヤS」は電動式シャッター雨戸のため、開け閉めなど、電気によって作動します。
また、停電時や緊急時には手動でも開け閉めができるようになっています。その場合は、シャッターが全閉の時と、少しでも開いているときでは操作のしかたが異なりますので、「開閉のしかた」の手順に従ってください。

■お願い

「イタリヤS」は電動式シャッター雨戸のため、開け閉めなど、電気によって作動します。
手動開閉機構を正しくご使用いただくためのお願いです。

お 願 い

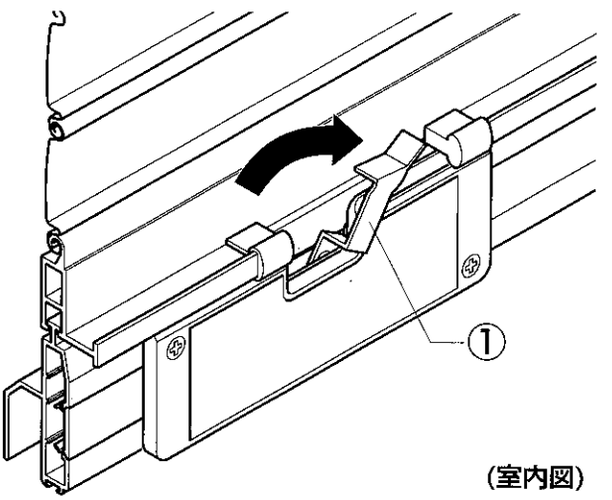
非常時にも適切にご使用いただけるように、 1 年に 1 回程度の作動確認を行ってください。
「開閉のしかた」 を参照してください。

■開閉のしかた

■全閉時の場合

全閉状態から開けるときの手順を説明します。

1.サッシの障子を開き、幅木のロックレバー①を右側に倒します。
2.ガイドレール内のロックが外れるので、そのまま幅木を持ち上げ、シャッターを開けます。
3.水切りから30mmぐらいシャッターを開けたら、ロックレバーから手を離して、開けられます。



(室内図)

■全閉時以外の場合

全閉以外のシャッターが少しでも開いているときの開閉のしかたを説明します。全開時も同じです。
幅木をもって上げ下げします。

6.点検とお手入れ

この章では、「イタリヤS」の操作をする場合に守るべき安全事項を説明しています。

■点検

「イタリヤS」を安全にご使用いただくため下記の点検を行ってください。
点検を行って、「イタリヤS」に作動不良や異常がありましたら、お買い求めの工務店、販売店またはトステム(株)営業所へご連絡ください。

△注 意

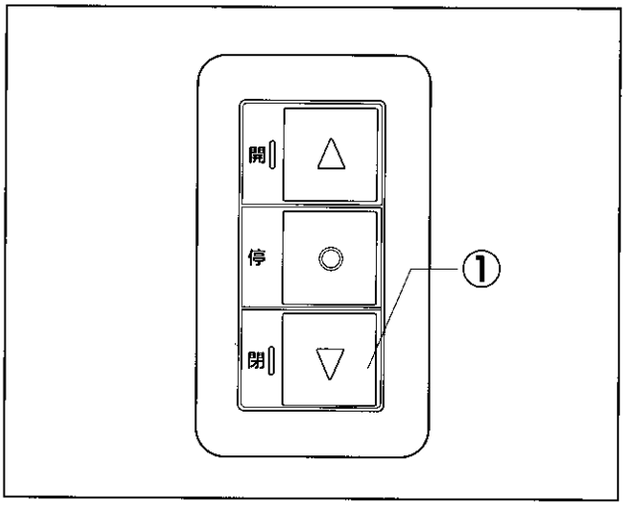
セーフティリターンセンサーの点検を行う場合は、必ず本章の手順に従ってください。
本章の手順に従わない場合、事故のおそれがあります。

■点検個所(表6-1)

番号	点検部分	点検内容
1	ガイドレール部 スラット部	作動がスムーズに行えないような傷や曲がり等の変形はないか
2	セーフティリターン センサーの作動	セーフティリターンセンサーが作動するか本章の点検手順に従ってください。
3	手動開閉	操作手順に従い、手動で開閉できるか。

■セーフティリターンセンサーの作動点検

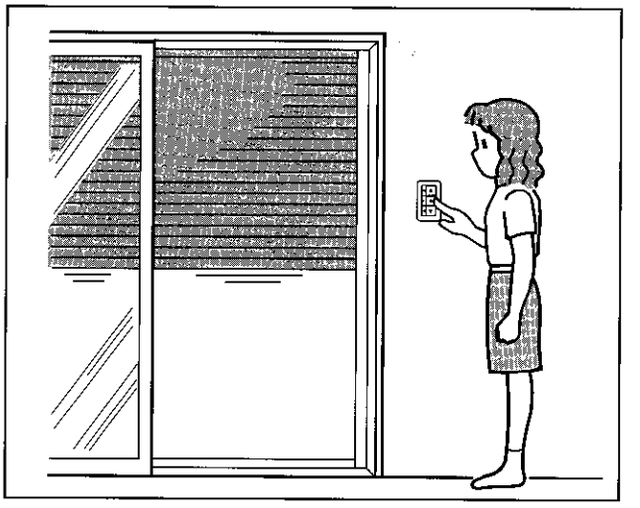
1.シャッターを全開にしてください。
2.壁スイッチの閉スイッチ①を押してください。
→シャッターが下降します。



△注 意

セーフティリターンセンサーを点検するときは、差し出した手が幅木に触れたら、軽く幅木を上に上げてすぐに手を引いてください。セーフティリターンセンサーが故障している場合、シャッターと窓枠の間に手をはさまれるおそれがあります。

3.シャッターを半分閉じた位置にきたところで、手を差し出してシャッターの下降をさまたげ、軽く幅木を上に上げます。
→シャッターの下降が停止します。
→シャッターが自動的に上昇します。
4.シャッターが以下の状態のとき、お買い求めの工務店、販売店またはトステム(株)営業所へ連絡してください。
→シャッターの下降が停止しない。
→シャッターが自動的に上昇しない。



■お手入れのしかた

「イタリヤS」は、アルミニウム及び鋼板で作られています。表面についたゴミ、ホコリは腐食の原因になりますので、汚れに応じて定期的に掃除してください。

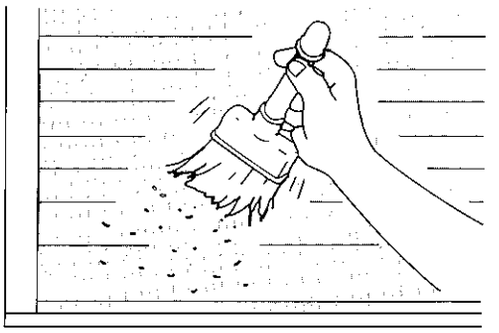
⚠ 注　意

(1)「イタリヤS」のお手入れは柔らかい布かスポンジを使用し、金属製のブラシや金ベラ等を使用しないでください。

(2) お手入れ用の洗剤は、中性洗剤を使用してください。

1.「イタリヤS」の表面についたゴミ、ホコリ、砂等を取り除きます。

2.ガイドレール部分についたゴミ、ホコリ等をきれいにふき取ってください。
ガイドレールの隅は、歯ブラシや洋服ブラシ等をお使いになると便利です。



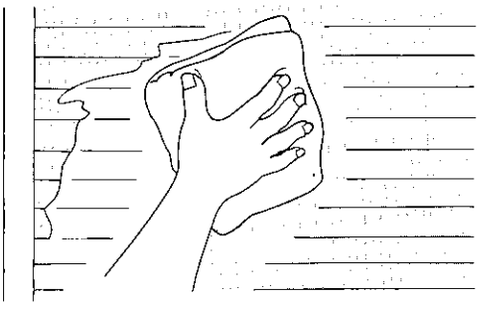
3.汚れは以下の要領でふき取ってください。

●あまり汚れがひどくない部分

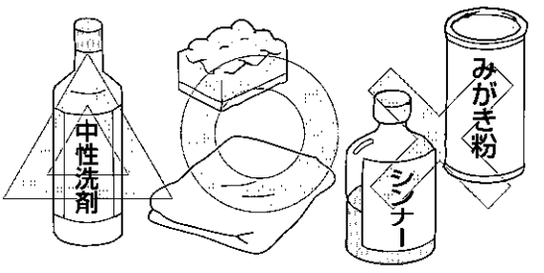
水で濡らし、かるく絞ったぞうきんでふき取ってください。
からぶきしてください。

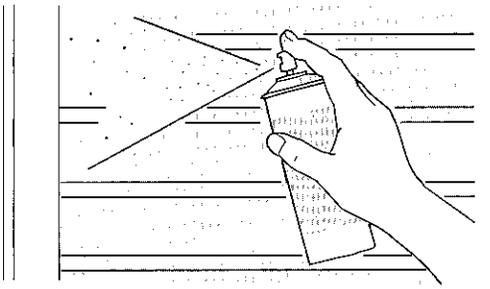
●特に汚れがひどい部分

中性洗剤をうすめた水で汚れを落としてください。
表面に洗剤が残らないように、きれいな水で洗ったぞうきんでよくふいてください。
からぶきしてください。



4.万一、鋼板部にサビが発生したときは、以下の要領で対応してください。
まず、目の細かい紙ヤスリなどでサビを完全に落とします。次に、市販のスプレー式ラッカーを吹き付けてください。その時、スラットのかみ合っている部分などの可動部にかからないよう注意してください。





7.シャッターが動かない場合

ここでは、故障の見分け方および、故障やご使用上でご不明な点の連絡先について説明しています。

シャッターが動かない場合、次の操作を行ってから、「表7-1シャッターが動かない場合」に従ってください。
停止スイッチを押してください。

シャッターが動かない場合(表7-1)

こんな場合	ここをお調べください	処置のしかた	参照ページ
シャッターが動かない	停電していませんか	停電が終わるまでお待ちください	−
	ブレーカーが落ちていませんか	ブレーカーをセットしてください	−
	スイッチは確実に押しましたか	本書の操作方法に従ってください 本書の「3.操作のしかた」を参照してください	11
	開ランプが点滅していませんか	本書の指示に従って操作してください 本書の「4.イタリヤSの異常表示」を参照してください	12
	ガイドレールに障害物がありませんか	障害物を取り除いてください	−

お問い合わせ先は、P2の「重要なお知らせ」を参照してください。

